

## ワークシート ミュージアム編<sup>へん</sup> (小学生) 解答例<sup>かいとうれい</sup>

### Q1 縄文人<sup>じょうもんじん</sup>のころ

(答え)

土器<sup>どき</sup>は、煮炊き<sup>にた</sup>をしたり、食べものや水をたくわえたりするため。

石器<sup>せつき</sup>は、動物や魚をとったりするため。

石器<sup>せつき</sup>は、動物の肉を切ったりするため。

土偶<sup>どくわう</sup>は、まつりを行うため。など

(解説)

縄文時代<sup>じょうもんじだい</sup>に土器<sup>どき</sup>が発明され、煮炊き<sup>にた</sup>ができるようになりました。

土偶<sup>どくわう</sup>は、胸<sup>むね</sup>の表現があることから女性をあらわしていると考えられます。

### Q2 海の恵み<sup>うみめぐみ</sup>

(答え)

つり針。ヤス。モリ。網<sup>あみ</sup>。 など

(解説)

魚はアジ、サバ、イワシなどの小魚のほかに、サメやブリが多く食べられていましたが、タコやイカ、シャコなども食べていたこともわかりました。

### Q3 森の恵み<sup>もりめぐみ</sup>

(答え)

弓矢<sup>ゆみや</sup>。槍<sup>やり</sup>。落とし穴。わな。

(解説)

石の矢じり<sup>や</sup>や槍先<sup>やりさき</sup>が出土しているため、弓矢<sup>ゆみや</sup>や槍<sup>やり</sup>を使ってえものをとっていたと考えられます。

### Q4 円筒土器<sup>えんとうどき</sup>

(答え)

バケツを上下にひきのばしたような形

ラッパのような形 など

(解説)

円筒土器<sup>えんとうどき</sup>は、筒<sup>つつ</sup>のような形であることからつけられた名前です。おもに、なべのように火にかけて煮炊き<sup>にた</sup>するのに使われ、外側<sup>すず</sup>には煤<sup>すす</sup>が、内側<sup>うちがわ</sup>にはおこげが残っているものもあります。

Q5 盛土

(答え)

土。土器。炭。骨。 など

(解説)

捨てられているもので、土のほかに、よく見えるものは土器です。断面から、とび出ているものの多くは土器の破片です。黒い地層には炭、白い地層には焼けた骨が観察できません。

Q6 竪穴住居

(答え)

お父さん＝狩りの道具の手入れ

お母さん＝料理

おばあさん＝あみ物

子ども＝おばあさんのあみ物を見ている

など

(解説)

竪穴住居は、家族で生活するための場でした。天井には魚（鮭）が干されており、干物などの保存食もつくられていたと推測されます。

Q7 臺

(答え)

石 など

(解説)

にぎりこぶしぐらいの石が、よく入れられています。その中でも、木の実を割ったり、すりつぶしたりする、植物の加工に使われた石器が多く見つかります。